

年金数理部会セミナー2009 の開催について

テーマ：「金融危機と年金財政」

1. 趣旨

公的年金制度は、将来の給付に見合う積立金を保有する形の積立方式による財政運営は行っておらず、積立金の規模も小さいため、今回の金融危機による資産価値の下落の影響は比較的小さい。しかし、今回の金融危機では、その影響が金融システムにとどまらず、実体経済に対してもデフレ圧力をもたらしている。また、現在の公的年金制度の財政運営は、年金給付の財源に保険料と国庫・公経済負担に加え積立金を活用するものとなっており、株式等の資産価値の下落も一定の影響を及ぼしてくるものと考えられる。

本セミナーでは、最近の世界的な金融危機の実態を分析するとともに、インフレやデフレといった経済変動が公的年金財政に対してどのような影響を与えるのかという観点から論議する。

2. 日時・場所等

日時：平成 21 年 7 月 28 日（火） 13：30～

場所：東京厚生年金会館 地下 1 階「ロイヤルホール」

3. 次第

・基調講演（約 1 時間 30 分）

馬淵 治好	オフィス セントポーリア 代表
小野 善康	大阪大学社会経済研究所 教授

・パネルディスカッション（約 1 時間 10 分）

座長	近藤 師昭	年金数理部会委員
パネリスト	翁 百合	(株)日本総合研究所 理事
	小野 善康	大阪大学社会経済研究所 教授
	坂本 純一	(株)野村総合研究所 主席研究員
	田中 周二	日本大学文理学部 教授
	馬淵 治好	オフィス セントポーリア 代表
	山崎 泰彦	年金数理部会長